

<開催中>

# 平山郁夫の絵画と アフガニスタンの至宝 ～流出文化財を守れ～

2005年7月9日(土)ー  
12月11日(日)

- 【会場】 当館 本館および別館
- 【開館時間】 10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館)、  
7～9月は無休  
10月からは毎週火曜日が  
休館となります。但し、  
祝日の場合は開館しています。
- 【入館料】 一般1,000円、高校生・大学生700円、  
小・中学生500円(毎週日曜日は無料)、  
障害者 無料(介護者は1名まで500円)  
※70歳以上は100円割引  
※団体(20名以上)は各100円割引
- 【主催】 (財)平山郁夫シルクロード美術館、  
(財)文化財保護・芸術研究助成財団、  
山梨日日新聞社・山梨放送、絲綢社
- 【後援】 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、  
韮崎市教育委員会、南アルプス市、  
甲斐市、小淵沢町、NHK甲府放送局、  
テレビ山梨、エフエム富士、  
平山郁夫美術館
- 【協賛】 キリンビール、ANA

ゼウス神像左足  
前3世紀 アイ・ハヌム出土 大理石  
彫刻のすばらしさのみならず、  
大きさに圧倒されます。



アフガニスタンではタリバン政権下に遺跡や博物館で略奪が行われ、多くの文化財が国外へ流出しました。ユネスコ親善大使でもある平山郁夫画伯はアフガニスタンから流出した文化財をへ文化財難民として保護することを提唱し、日本国内で百三十七点の文化財が保護されました。現在、アフガニスタンの首都カーブルでは博物館の修復が終わり、遺跡の調査も進められています。流出文化財が新しいアフガニスタン政府に返還される日もそう遠くないでしょう。

当館では保護された百三十七点のうち、九十九点の文化財を展示し、アフガニスタンの文化を紹介すると共に、アフガニスタンを描いた平山郁夫の絵画と貴重な写真資料によつて内戦前と今日のアフガニスタンを対比し、文化財保護の大切さとそれに対する支援をあらためて訴えます。

## 平山郁夫欧州写生絵巻 —イタリア・ローマ編—

2005年10月5日(水)ー  
12月11日(日) 本館二階コーナー展示



昭和三十六(一九六二)年秋に、第二回ユネスコ・フェローシップの留学生に選ばれた画家平山郁夫は、「東西宗教美術の比較」をテーマとして、翌年、昭和三十七年十一月一日に最初の目的地イタリアに旅立った。時に三十二歳であった。

のちに平山郁夫はこの旅を「古代、ルネッサンス、近代と、ヨーロッパ文化に接し、大変なものを学び、教えられた旅であった」と語り、この絵巻物を「記念の旅絵日記」と述べている。

この旅から外国の文化を通して日本を見ることがの重要さを学んだ平山郁夫は、やがて日本文化の源流を求めて壮大なシルクロードへの旅に出ることになる。

今回展示される絵巻物は、平山郁夫のシルクロード世界への第一歩とも云うべき記念碑的かつ珠玉の作品集である。